

# COVID19:子どもの保護と安全な学校運営のための国際赤十字連盟（IFRC）とユニセフ及び国際保健機関（WHO）によるガイダンス：学校管理者、教員、両親と子供に対する実践的行動とチェックリストを含む

2020年3月10日：ジュネーブ/ニューヨークにて共同声明

国際赤十字連盟（IFRC）とユニセフ及び国際保健機関（WHO）は本日、COVID-19ウイルスの感染から、子どもと学校を保護するための新たなガイダンスを発表しました。このガイダンスは学校を安全に保つための、重要な検討事項と実践的なチェックリストを提供しています。また、このガイダンスは、教育機関への緊急時対策をどのように適用、また実践するかについての助言を、国および地方の管轄当局に提供しています。

このガイダンスは、学校閉鎖が子どもの学びと健やかさに及ぼしうる負の影響を軽減するための推奨事項を含んでいます。これは、全ての子どもに対しての、必須サービスへのアクセスおよびオンライン教育戦略やラジオ放送による教育コンテンツの提供といった遠隔教育を含む教育の継続の保障に対する計画を有することを意味します。これらの計画には、最終的に学校を安全に再会するために必要な手順をも含める必要があります。

学校の開校の継続時には、子どもとその家族が保護され、かつ、必要な情報が提供されるようにするために、本ガイダンスは以下の事柄を関係者に求めます。

- ・子どもたちが自分自身を守れる方法を提供すること。
- ・正しい手洗いと衛生手技を推奨し、衛生資材を提供すること。
- ・特に水道や衛生設備の清掃と消毒
- ・頻回な通気と換気の実践

このガイダンスはすでにCOVID-19の伝播が確認されている国に当てはまるものですが、他のすべての状況においても適切な内容です。

生徒が教育を受け、他の人たちにどうしたらウイルスの拡大を防げるかを話すことを通じて、彼ら自身が家庭、学校、そして地域での感染予防と制御の伝導者になってもらうことができます。安全な学校運営の継続、または一時閉鎖後の再開には、多くのことを検討する必要がありますが、上手に行うことができれば公衆衛生を促進することに繋がります。

例えば、2014年から2016年のエボラ出血熱発生時に、ギニア、リベリア、シエラレオネで使われた、安全な学校教育に関するガイドラインは、学校を拠点にしたウイルス感染予防に役に立ちました。

UNICEFは、通学か遠隔教育かに関わらず、生徒に対して包括的な支援を提供することを、学校に強く求めます。学校は子どもたちに彼らと彼らの家族を守るための手洗いやその他の重要な情報を与え、メンタルヘルスサポートを受けやすい環境をつくり、そして子供たちがお互いを思いやる心を持ち、ウイルスについて話すときにステレオタイプ化を避けるように促して、スティグマと差別を防がなければなりません。

新しいガイダンスでは、保護者や介護者だけでなく、子供や学生自身にも役立つヒントとチェックリストを提供しています。それには以下のような行動が含まれます。

- ・子どもの健康状態をよく観察し、病気の場合は学校には行かせず家で休ませる。
- ・子どもたちが質問することと、心配事を話すことを促す。
- ・咳やくしゃみをする時は、ティッシュまたは肘（袖）に向かってすること、そして顔、目、口、鼻には触れないこと。